

ステータス:	終了	開始日:	2017/08/16
優先度:	通常	期日:	
担当者:	n-miyamoto	進捗率:	100%
カテゴリ:		予定工数:	0.00時間
対象バージョン:			
<b>説明</b>			
パフォーマンス測定用のRTCを作成し、複数接続した場合の遅延時間等を計測する。			

**履歴**

#1 - 2017/08/16 18:01 - n-miyamoto

- ファイル Clock.png を追加
- ファイル data\_transport1.png を追加
- ファイル data\_transport2.png を追加
- ファイル result.txt を追加
- ファイル result\_composite.txt を追加
- ファイル result\_multi.txt を追加
- ファイル result\_multi\_composite.txt を追加
- 進捗率 を 0 から 80 に変更

パフォーマンス測定用に以下のRTCを作成しました。

- <http://svn.openrtm.org/OpenRTM-aist/trunk/OpenRTM-aist/examples/Analyzer/>

Analyzerコンポーネントを1個、Analyzer\_testコンポーネントを5個起動してデータ書き込みからデータ受信までの時間を計測します。

以下の4種類の条件で動作を確認しました。

1. 全てのRTCをVxWorks上で起動(非同期)
2. 全てのRTCをVxWorks上で起動(複合コンポーネント)
3. Analyzer\_testコンポーネントを1つだけUbuntuで起動(非同期)
4. Analyzer\_testコンポーネントを1つだけUbuntuで起動(複合コンポーネント)

Clock.png

コネクタはインターフェース型corba\_cdr、データフロー型pushで接続します。  
100KBのデータを通信し、またonExecute内で0.1秒(全RTC合計で0.6秒)待機するようにしています。

1、2の条件では以下の結果になりました。

data\_transport1.png

3、4の条件では以下の結果になりました。

data\_transport2.png

#2 - 2017/08/29 13:34 - n-miyamoto

- ファイル data\_transport3.png を追加
- ファイル data\_transport4.png を追加
- ファイル result\_composite2.txt を追加
- ファイル result\_multi2.txt を追加
- 進捗率 を 80 から 90 に変更

- データサイズを徐々に増やした場合の実験
  - 全てのRTCをVxWorks上で起動(複合コンポーネント)
  - data\_transport3.png

- Analyzer\_testコンポーネントを1つだけUbuntuで起動(複合コンポーネント)  
data\_transport4.png

#3 - 2017/12/26 17:08 - n-miyamoto

- ステータスを新規から解決に変更

- 進捗率を90から100に変更

#4 - 2018/09/13 09:29 - n-miyamoto

- ステータスを解決から終了に変更

## ファイル

---

Clock.png	8.36 KB	2017/08/16	n-miyamoto
data_transport1.png	9.21 KB	2017/08/16	n-miyamoto
data_transport2.png	13.1 KB	2017/08/16	n-miyamoto
result.txt	2.86 KB	2017/08/16	n-miyamoto
result_multi.txt	2.09 KB	2017/08/16	n-miyamoto
result_multi_composite.txt	454 Bytes	2017/08/16	n-miyamoto
result_composite.txt	873 Bytes	2017/08/16	n-miyamoto
data_transport3.png	14.2 KB	2017/08/29	n-miyamoto
data_transport4.png	12.9 KB	2017/08/29	n-miyamoto
result_composite2.txt	5.37 KB	2017/08/29	n-miyamoto
result_multi2.txt	6.09 KB	2017/08/29	n-miyamoto